

脳磁計とMRI等を活用した水俣病の健康調査のあり方に関する研究班 令和6年度研究報告書概要



- 研究課題「脳磁計とMRI等を活用した水俣病の健康調査研究の調査デザイン及びその技術的な議題整理を行うための研究」の令和6年度研究報告書の概要は以下の通り。

水俣病特措法第37条第1項の健康に係る調査研究を実施する上で、公衆衛生学、生物統計学、脳神経内科学の観点を踏まえて、下記の論点の観点から、調査デザイン等の検討を行った。

対象者の適格性

- (a) 公的に「水俣病」等と認められていない (b) 水俣病以外の脳神経内科疾患の既往がない (c) ステロイドや抗癌剤の治療を受けていない (d) 糖尿病ではない (e) 大量飲酒者ではない (f) 金属が体内にない の6項目

対象者の適格性の判定方法

対象者募集の際の自記式の調査票（健康状態アンケート）を用いて判定。

調査の実際の流れ

- ①問診、②脳神経学的所見、③脳磁計、④MRIの4項目を実施。（①②は熊本大学医学部附属病院、③④は水俣市立総合医療センターにて実施）
※①は水俣病関連の問診内容に知見のある者による実施が望ましい。②は脳神経内科専門医による実施が必要。
※①～④について、水俣病に特徴的な所見、地域間比較に適する項目、標準的な所見の取り方等について、プレテストの結果も踏まえ、引き続き検討を行う。

2025年度（令和7年度）のプレテスト案

- ・ 2026年度（令和8年度）から実施する調査が実行可能かどうかの検証を行う。
- ・ 対象者数は40人、調査の日数は10日とする。対象者は市町村に依頼し、住民基本台帳から無作為に抽出して依頼。
- ・ 検査の流れは1日目に問診、脳神経学的所見、2日目にM E G、M R Iを実施。

今後の予定

プレテストの方法の確立と準備を早急に行う。プレテストの結果を踏まえ、実行可能性について、さらなる検討を重ねる。

（参考）研究班の概要

- ・ 研究課題名 : 脳磁計とMRI等を活用した水俣病の健康調査研究の調査デザイン及びその技術的な議題整理を行うための研究
- ・ 研究予定期間 : 3年
- ・ 主任研究者 : 中村 好一 (宇都宮市保健所長 (自治医科大学 名誉教授))
- ・ 研究協力者 : 水澤 英洋 (国立精神・神経医療研究センター理事長特任補佐) 中村 政明 (国立水俣病総合研究センター 臨床部長)
- 小佐見 光樹 (自治医科大学助教) 平井 俊範 (熊本大学病院長・教授)
- 高橋 邦彦 (東京科学大学教授) 上谷 浩之 (熊本大学特任講師)
- 立森 久照 (慶應義塾大学特任教授)